

「こうち男女共同参画プラン」改定に向けての地域住民との意見交換会発言要旨(概要版)

平成22年8月31日(火) 19:00~21:00 こうち男女共同参画センター「ソーレ」

平成22年9月1日(水) 18:30~20:30 香美市立ふれあい交流センター

平成22年9月3日(金) 18:30~20:30 四万十町農村環境改善センター

テーマ1 「意識を変える」**(1) 男女間の意識を変える****① 意識改革と社会制度・慣行の見直し**

(現行プランについて)

- ・高知市の条例づくりにかかわってきたが、実効性のあるものでなければならないと思っている。
- ・県民意識調査での男性優位の意識が前回調査よりも上回っている。もっと取組んでいく必要があると感じた。
- ・プランの推進方向を変えずに、具体的な取組を付け加えるのは良いことだと思う。

(男女共同参画の推進について)

- ・県民意識調査で男性が優位の意識が7割を占めているが、これは、差別に気が付いていないということ。
- ・相手があることなので、むずかしいが、意識を変えることが男女共同参画を進めること

(固定的役割意識について)

- ・旧姓を使っているが、旧姓は好ましくないとの話があり、固定的な考えを身をもって感じた。
- ・文化財保護を担当しており、作業服で仕事をしているときに、子どもから「女が工事しゅう」と言われて驚いた。学校での意識改革が必要。
- ・子育ては母親がやるものと周りが思っていることで、母親が子どもと一人で向き合う毎日は、逃げ場のないものとなる、周りの目、慣習を改めることが重要

(慣習・しきたりについて)

- ・山開きなどでは、女性記者は入れないなど、慣習・しきたりとなっている文化的なところの男女差別について、どこまで、切り込むかが問題。
- ・管理職(校長)になったとき、赴任したところでは、初めての女性の校長ということで、差別的な対応を受けたり、ささいなことに文句を受け、女性だからと頑張らないといけなくて、大変だった。

(世代間の意識の違いについて)

- ・年代により意見に差がある。年配の方には「男性に家事をさせるのはおかしい」などの意見がある。
- ・姑には、「なんでも男にやれというのはおかしい」と言われたが、息子には手伝うように言っているし、それが夫婦円満につながるものと思う。
- ・最近の若い人は家事を分担して行っていて、感心する。

② メディアにおける女性の人権の尊重

(マスコミを通じた固定的役割意識について)

- ・例えば、AC(公共広告機構)の広告でこんな大人にたくないという例で、男子学生が空き缶をけっていたり、落書きをしたりするシーンがあるが、これもいたづらをするのは男性、注意するのは女性、悪いことをして怒られるのは男性と、目に見えないところで男女の固定的役割が刷り込まれている。

(2)さまざまな場での意識を変える

①家庭での男女共同参画の浸透

(家庭での男女共同参画について)

- ・お父さんが子どもを見守ることで、子どもが違ってくるし、老後も夫婦が仲良くできるのでは。
- ・家事に参加しているから平等ではなくて、思いやる心や、さまざまな気づきが大事。
- ・夫と同じ職場であるため、共働きへの理解があり家事育児の協力はあるが、女性に負担がかかるように感じる。
- ・共働きだと、家事の分担をしないと無理。

(子どものころからの男女共同参画の意識の醸成について)

- ・小さなときから男女の人権の尊重という教育が必要だが、根のところに男女の違いはあるということも教える必要がある。
- ・夫婦の協力をみて育つ子供は、家事を分担することが当然だと教えなくとも分かる。育つ環境が重要。

②学びの場での男女共同参画教育の推進

(PTA 活動への男性の参加について)

- ・PTA 活動はお母さんが多いが、「お母さんの会ではないよ」「力仕事もある」「大切な子どもの成長をみることができないのは残念」と意識付けし、お父さんに参加してもらうことが重要だと思う。
- ・PTA 活動などで、妻から「あんまり行かんとして、役員やらされるき」と言われた。

③職場での意識啓発

(男女の特性を活かした活動について)

- ・男性の特性、女性の特性を重視した活動が大事
- ・男性ならではの仕事の仕方（力ごとなど）もあるが、女性ならではの仕事のやり方もある。男性、女性の特性があるので、型にはめてはいけないと思う。
- ・女性ならではの気づきもあるし、それに男性のサポートなど協力し合ってやっていくことが大事。

(各職場・現場における男女共同参画について)

- ・職場は、建設業で最近では女性が少なくなっている。女性でもできる仕事があり、男女差別を考えたことはない
- ・（保健師）女性の多い職場だが、男性の保健師もおり、仕事上あまり男女の違いを感じない。
- ・社協は 150 名の職員だがほとんどが女性。訪問介護では男性のヘルパーの採用は少ない。施設ホームでは、増えてきているが。
- ・職場では女性が一名、男女差はないが、力仕事や休日出勤、残業が多く、子育て中なので、帰ったら家事もしなくてはならず、男はいいなと思ったこともあった。
- ・PTA について、会長職は 26 校中 2 名、会長がえらいわけではない。会員は 6 : 4 で女性が多く、意見も女性の方が多く出ていると思う。

④地域での男女共同参画の推進

(地域活動への男性の参加について)

- ・15 年近く、子ども会にかかわっているが、積極的に出てくるのは女性が多い。
- ・女性は、初めての場でもおしゃべりなどを通して打ち解けやすいが、男性は何をすればいいかわからないので、役割があると参加しやすい。
- ・男性を地域活動に引っ張るには、地域のリーダーづくりという視点で実施するとよいと聞いた。

テーマ2 「場を広げる」

(1) 政策・方針決定過程への女性の参画の促進

② 団体・組織への女性の参画の推進

(方針決定過程への女性の参画について)

- ・政策決定の場に女性が必要。
- ・メディアにおいても企業においても、男女共同参画の視点をもった人を意思決定機関におかなければならない(現在はほとんどが男性)。

(3) 地域活動等への参画の促進

① 地域活動等への参画の促進

(団塊の世代の参加について)

- ・知識・経験を有する団塊の世代の参加を促進するしくみづくりが必要。
- ・退職前から地域活動などへ参加していないような人は、退職後も地域活動に参加しない。

② 防災分野での男女共同参画の拡大

(消防団への女性の参加について)

- ・消防団員不足を解消するためには女性の参加が必要(特に山間部)、そうでなくては存続できない。
- ・具体的な女性団員の仕事としては、昼間の男性がいないときに火災があったときに、ポンプの使い方の指示や、動かしていない消防車を現場まで運転してきてもらったり、独居老人宅への訪問などをしていただくと助かる。

(防災・避難所について)

- ・避難したとき、女性でないと分からないこと(子育てとか母体のこと)がたくさんある。
- ・地域にいるのは、女性。地域を知っているのも女性。頭の中にマップが入っていて、こまかい情報をもっているのも女性。
- ・災害時に学校の避難所で、トイレの掃除は女性が率先して行ってくれた。また、ちかんの被害もあったと聞く。不特定多数が集まる場所では、女性を守ることを想定して、準備しておくことが必要。

テーマ3 「環境を整える」

(1) 仕事と生活の調和

① 雇用の場における子育て・介護環境の整備

(バランス意識をもつことの大切さについて)

- ・それぞれの家庭、地域のバランスがよければ、それはそれでいいと思う。何もかもが平等ではなく、各家庭のバランスが大事。

(育休の取得について)

- ・職場では、育休を取る際に職場へ迷惑をかけるのではと気を使う。
- ・女性特有の理由で仕事を中断することで、職場に迷惑をかけるのではと悩んでいる友人がいる。
- ・育休がとれる職場づくりがどれくらい進んでいるのかが疑問。
- ・県や、役場、商工会などで、きっちり育休をとることが、お手本となって、小さい企業などまで浸透するのではないだろうか。

② 家庭や地域における子育て・介護環境の整備

(子育てについて)

- ・延長保育、休日保育や、乳幼児の早期入園が広まっているが、母子のきずなが希薄化し、子どもの安心感、自尊感情が育つかが心配。乳幼児期のメンタル的なケアを考えてもらいたい。子どもの

ころからの自尊感情が他人を思いやる心を育てると考えているし、それが男女相互のいたわりにもつながると思っている。

（高齢者介護にかかる男女共同参画について）

- ・ 高齢者の支援など行政だけでは対応できないことがある。
- ・ 介護は女性が多いが、最近では男性の介護者も増えていて、男性の介護に対する相談もある。
- ・ デイサービスは、女性がほとんど。託老所も利用者は女性がほとんど。